

青少年の主張

青少年育成町民の集いで
発表された作文です。



『変わらなくていい自分』

坂祝小学校6年 高橋 歩翔 さん

僕が、なぜこのことについて考えたかというところ、自分は人との関わり方が苦手なところ、特に初めて会った人と話をする時は、とても緊張してしまうから。始めからみんなの輪の中に入れば、何も緊張はしないけれど、途中から学級の輪に入るときは、緊張してなかなか入ることができないことがあります。

他にも、友達と話しているときに、自分では相手の目を見て話をしているつもりでも、お母さんから、

「目を見ていないよ。」

とよく言われます。ちゃんと意識しているはずなのに、なんで？のくり返しです。きつと自信がない自分がどこかに居るんだなと思いました。みんなみたいにになりたい。だれとでも会話をたくさんできるとなりたい。でも、自分にはどれくらいレベルが高いことばかりです。お母さんは、

「もっと積極的になって、はずかしがらないで。」

と言います。また、

「これから大きくなっていくと、どうしても人との関わりが増えるんだよ。自分の思ったことをちゃんと言ってみよう。話さないで、相手に自分の思っていることが伝わらないよ。話したら、相手に対して返事をくれるから、またそこから話をふくらませればいいと思うから。」

と、いつも同じことばかり言われます。分かっていて、それを言われるのが僕に

とつて一番いやです。だから、

「もういつも同じことばかり言わなくても分かってるよ。」

と言います。

そんな時に僕は、小さい頃教育テレビでよく観ていた番組を思い出します。それは、「私と小鳥とすず」という詩の中の「みんなちがってみんないい」という詩です。この世界中みんな同じじゃない。様々な人がいるから個性がある。だから、だれにも良いところも悪いところも見つけられると思いました。だから、緊張して話せなかった時にお母さんから

「もー」

と注意されたら、僕はいつも、金子みすずさんの詩を言います。すると、お母さんは、

「そうだよ。みんなちがっていいよね。みんな一緒なんて変だよ。」

と言ってくれます。僕はとてもよい詩に出会えたと思っています。

僕が四年生の時のことです。当時の担任の先生から学級委員になることをすすめられました。え？まさか自分が？と驚きました。僕には、自信なんて全然ありませんでした。みんなの前に出なきゃいけないし、呼びかけもしないといけません。考えれば不安ばかりでなやんでいました。でも、先生から

「前期の子たちに教えてもらいなからやればいい。先生もサポートするからがんばってみなさい。」

と言ってもらい、勇気を出してやることに決めました。家でその話をする

お母さんが驚きながらも

「がんばってみて。きつと何かの自信につながるよ。」

と応援してくれました。とても嬉しかったです。

いろいろ大変だったけど、先生が声をかけてくれて僕はとてもよかったです。自分の中で成長したかは分かりませんが、自分では大きな一歩でした。そう思えたのは、自分から話しかけたり、思っていることを素直に伝えたりすることができるようになったからです。それで自信もつけることができたと思っています。みんなの支えもあったから、やり切ることができました。この経験がなかったら、いつまでも変わることができなかったかもしれない。

ふとしたところに関われる場面やチャンスなどがあります。僕は今、最高学年の六年生です。人前で話す時が多くあります。朝は、通学班の副班長として、さきがけあいさつを心がけ、班を後ろから見守っています。委員会活動やファミリー活動など、いろいろな場面の自分を振り返ってみると、たくさんの人たちと自然に関わっていて、話をしているんだなと思います。僕はこうして苦手なことができるようになりました。だから、無理に変えようとしなくても、何かのきっかけでできるようになれると思います。僕はこれからも少しずつできることを増やしていきたいと思います。

青少年の主張

青少年育成町民の集いで
発表された作文です。



『争いをなくすために』

坂祝小学校6年 丹羽 絢子 さん

私は、けんかがきらいです。「けんかのない世の中になつたらいいなあ。」と、いつも思っています。でも、争いごとは毎日、いろいろなところで起こっています。

例えば、登校中に、どっちの班が先に行くかで争いになります。クラスの話合いでは、相手の意見と自分の意見がちがうと、おたがいがゆずらず、争いになります。テニスの試合でセルフジャッジをする時、ショットが入ったか入らなかったかで、言い合いになることもあります。これらは、小さい争いですが、世の中では、大きな争いごともし起こっています。

テレビのニュースで、いろいろな争いごとを報道しています。四月の終わりに、スリランカで、自爆テロが起こりました。ゴールデンウィーク中にも、北朝鮮がまた、ミサイルを発射したのではないかと、ニュースも流れました。日本と周りの国とでも、いろいろな問題をかかえています。

以前、私は原爆ドームに行きました。焼け落ちて、ぼろぼろになったドームや、資料館の写真を見て、戦争のひどさにおどろき、こわい気持ちになりました。「どうしてこんなひどい戦争をしなくてはならなかったのか。」全く分かりません。でも、世界のどこかで今でも紛争と呼ばれる争いごとが起きているらしいのです。

だれもが争いごとはきらいなはずなのに、世の中から争いがなくならないのは、どうしてなのでしょう。

六年生になって、歴史を勉強し始めました。時代が変わるときに、争いごとが起こっていることを知りました。

そんな中、私は大化の改新について学習し、本も読みました。大化の改新とは、645年に起こった政治改変です。中大兄皇子と中臣鎌足が中心となって、その時の権力をもっていた蘇我氏をたおして、新しい政治を始めました。でも、本には「蘇我氏が悪いばかりでなく、もつとお互いが話し合っていれば、ちがう歴史になっていたかもしれない。」と書いてありました。中臣鎌足は、のちに藤原氏となりますが、その藤原氏も平安時代になって権力が大きくなりすぎ、ついには源氏にほろぼされることとなります。私たちの国の歴史をたどると、同じようなことが何回も起こっていることが分かってきました。

テロも同じだと思います。自分達の民族のためとあって、他の国の民族を攻撃していたら終わりがありません。にくしみや怒りをずっと受けついで、よいこととは何もないと思います。

最近、子どもニュースの番組を見ました。北朝鮮がミサイルを使うのは、アメリカと話をしたいからだと言っていました。兵器を持っていることを利用して、自分の国に有利な話し合いをしようとして

いるとしたら、それはちがっていると思います。世界の多くの国が、自分の国を守るために、兵器を持っています。いろいろな国が武器を持つことで、軍事力を競争しながら戦争を起こさないようにしていると聞いて、すごく変だと思いました。もつとよい方法で平和な世の中をつくることはできないのでしょうか。

調べてみると、すばらしい活動がいろいろあることが分かりました。私のおじは、アジアの国などでトイレを作る仕事をしているそうです。トイレができると、衛生的になり、病気が減ります。他にも、飲めない水を飲める水に変えたり、野菜を上手に作って、栄養のある食べ物を食べられるようにしたりする技術を教えている人もいます。よい技術をもっている人が、そうではない人々に協力して、みんながよい生活ができるようになることは、すごいことです。私も将来、こういう活動のどれかに参加したり、そういうところで仕事をしたりしてみたいと思いました。

でも、私は今はまだ子どもです。今の私ができることは何かを考えてみました。それは、周りの人たちと仲良くすることや、人に対して、いつも思いやりをもつことだと思います。一つの言葉を口にするときに、この言葉を言われたらどんな気持ちになるだろうかと相手の気持ちを考えて言葉を使える人になりました。